

ひかり

JA東旭川だより



謹  
賀  
新  
年



**TOPICS**

新年のご挨拶 ②  
役員研修報告 ⑩

No. **272**  
2025.1.1





## 新年のご挨拶

代表理事組合長 畑山 義裕

新年あけましておめでとうございます。

組合員の皆様におかれましては、ご健勝にて輝かしい新年を迎えられましたことと心よりお慶び申し上げます。また、JA事業へのご理解ご協力に対しまして改めて感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、東旭川農業の基幹作物であります水稲につきましては、春先に一時日照不足となったものの、以降は概ね高温多照で経過したことからもみ数はやや多めとなり、登熟は7月下旬から8月上旬に日照不足となりましたが、以降は高温傾向が続いたことにより生育は順調に進みました。作柄は「やや良」となり品質についても良好で、タンパク値は基準内出荷が多くなりました。米価については、生産資材などの経費が高止まりする中、今年度の営農が安定経営に向けて期待できる良い価格となりました。

畑作については、春小麦、秋小麦、そば、子実用トウモロコシなどは、計画数量は下回ったものの、高値で推移し金額は上回り、大豆は数量、金額ともに計画を下回りましたが、野菜・花きは計画金額を上回る年となりました。

昨年11月20日に開催されました第31回JA北海道大会において、食料安全保障の強化と農業所得の確保、農業分野における環境負荷低減への対応、人口減少局面下の人材の確保など、農業・JAを取り巻く環境や今後の展望をふまえ、JAグループ北海道が一丸となって将来ビジョンの実現に向け、①食料安全保障の強化と持続可能な北海道農業の確立②JAの組織基盤の強化と健全な経営基盤の確立③農業・食・JAへの理解醸成について組合員・JA・連合会がそれぞれの役割を再確認すると共に、地域と組織の実態に応じた「実践方策」を設定し取り組むこと、さらに「アグリアクション北海道」を合言葉に農業・食・JAへの理解醸成に一層取り組むことで、組合員・JA役職員・地域住民など地域社会で生きる全ての「ひと」とともに、「力強い農業」と「豊かな魅力のある地域社会」の達成が決議され、JAグループ北海道が大会開催を通じてグループ全体の意志集結による組織・事業の強化を図っていくこととなりましたので、組合員の皆様のご理解、ご協力をお願いします。

結びになりますが、本年が豊穡の年となること並びに組合員の皆様のご健勝を祈念申し上げ新年のご挨拶とさせていただきます。

監	常	代	(審	(信			理	筆	代
事	勤	表	査	用	〃	〃	事	頭	表
荒	監	監	担	担			請	理	理
内	事	事	当	当	斎	佐	川	事	事
孝	関	小	理	事	藤	藤	幹	坂	畑
文	根	原	事	小	雅	絢	英	井	山
	和		(営	鈴	紀	也	樹	義	裕
	子	隆	農	木				裕	
			販	達					
			売	也					
			課						
			長						

謹賀新年



## 令和7年の年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会  
代表理事会長 樽井 功

新年あけましておめでとうございます。

組合員の皆様におかれましては、日々営農に更に邁進されておられることと存じます。

また、組合員・役職員の皆様が一丸となり地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対しまして、改めて敬意と感謝を申し上げる次第であります。

昨年の北海道農業については、春先から天候に恵まれ、各作物の生育は全般的に平年よりも早く進んでおりました。しかしながら、夏場は猛暑・豪雨による記録的な高温多湿の影響を受け、各作物等の収量および品質に影響が出た年となりました。

近年、気候変動等による自然災害の多発や栽培適地の変化、国際紛争や急激な円安の進行による飼料・肥料をはじめとした生産資材の高止まりが農業経営に甚大な影響を与えており、農業・農村を取り巻く環境は一段と厳しさを増しております。

昨年には、四半世紀ぶりに食料・農業・農村基本法が改正され、現状に即した基本理念の見直しと、「食料安全保障の抜本的な強化」、「環境と調和のとれた産業への転換」等の実現が盛り込まれました。政府は、初動5年間の農業構造転換集中対策期間と位置づけ、施策を集中的に実行するとともに、今年3月に食料・農業・農村基本計画を策定するべく引き続き検討を進めております。

J Aグループ北海道としては、食料安全保障の強化と持続可能な北海道農業の確立のために、農地の確保および適正利用の強化、食料・自給飼料等の安定生産・供給と環境負荷軽減の両立に取り組みながら、それを後押しする力強い政策支援を求めていくことが重要と考えております。

また、昨年は第31回J A北海道大会が開催され、「食料安全保障の強化と持続可能な北海道農業の確立」、「J Aの組織基盤の強化と健全な経営基盤の確立」、「アグリアクション北海道の推進による農業・食・J Aへの理解醸成」の3つの議案を決議いたしました。

今後、議案の達成に向けて、組合員・J A・連合会が一丸となって、生産現場の行動変容と組合員の意思結集による農政運動、J Aの経営管理の高度化やデジタル化の推進による業務効率化・生産性向上に取り組んでいかなければなりません。

さらに、消費者の皆様には、J Aグループ北海道統一の情報発信のフレーズである「アグリアクション北海道」を浸透させるとともに、効果的な情報発信により、今まで以上に農業・食・J Aに対する理解を深めていただき、J Aグループが提唱する「国消国産」の認知を広めてまいりましょう。

結びになりますが、本年は巳年です。巳（へび）は冬眠から目覚め地上に這い出すことから、冬に根をはった草木が芽を出し「新しい種子が生まれる」という意味があると言われ、転じて、巳年は力を蓄えていたものが芽を出す「起点」の年、脱皮する特性と併せ「再生と誕生」を意味する年だと言われています。

この謂われにあやかり、本年が北海道農業の飛躍の起首となること、皆様のご多幸とご健勝をご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

以上





## 新年のご挨拶

上川農業改良普及センター  
所長 山本正浩

新年明けましておめでとうございます。年頭に当たり東旭川農業協同組合の組合員とご家族のみなさまに謹んで新年のお慶びを申し上げます。

また、平素より農業改良普及センターの活動に対し、ご理解とご協力いただいております。心より感謝申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、融雪期は平年並でしたが、その後は日照時間も多く、気温も高い日が続き、春作業は概ね順調に進みました。

水稻は5月下旬から6月上旬は低温・寡照により、同時期に移植した苗は分けつが発生が遅れました。莖数不足が心配されましたが、6月中旬から天候が回復し、莖数・穂数とも平年並となりました。登熟期間は高温でしたが、心配された白未熟粒の発生は少なく、品質は平年並、作況指数は104のやや良（農政事務所11月19日公表）となりました。

麦類は融雪期が平年並だったため起生期も平年並で、穂数は平年並となりました。赤さび病の発生が見られましたが、適切な防除によって影響は最小限に止められました。高温により開溝未熟粒の発生が懸念されましたが、品質は並～やや良でした。収量は地域やほ場差はありましたが過去最高レベルの地域があるなど、良好でした。

豆類は、は種・出芽とも平年並でしたが、は種時期が遅い地域では土壌水分不足により出芽が遅れました。その後は生育も順調で、着莢数は平年を上回るとともに、適期に収穫ができ収量・品質ともに良好でした。

園芸品目では高温の影響が見られ、主なものでは果菜類の生理障害（落花）や日焼け果、ほうれんそうの出芽不良が発生しました。また、害虫ではハダニ類、アブラムシ類、アザミウマ類の発生が多く、一部被害がありました。

このような条件下でも、ほとんどの作物で収量・品質は平年並の結果となりました。去年は暑い夏でしたが、これだけの成果を残せたのは、基本技術の励行と、厳しい気象環境に対応し、新たな技術を導入するなど、柔軟な対応によってもたらされた結果であり、生産者や東旭川農業協同組合役職員のみなさま、関係者各位の尽力に敬意を表します。

さて、令和の時代に入ってから、ほぼ毎年のように高温対策に悩まされてきました。ここ10年を振り返っても暑い夏が頻発しているのはみなさまも肌を感じていることと思います。令和6年は農産物価格も上がり、資材費の高騰は留まることを知りません。また、日本の人口は減少の一途ですが、人の手で行わざるを得ない作業もまだ多く、スマート化ばかりを頼りにできません。資材費の高騰については現在の生産体系など見直し、ムダやムラを最小限にしていくことや、限りある資源の地域内循環を積極的に取り入れていくことが重要です。

労働力の確保については個人での対応は限界があり、省力化技術の導入と組織的な労働力確保を並行して取り組むことが急務と考えます。

普及センターとしてもみなさまと一緒に考え、地域の活力向上に繋がる支援を続けてまいります。今後もお気軽にご相談ください。

今年もみなさまがご健勝で宮農し、豊穡の秋を迎えられますことをご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。



## 2025年 新春のご挨拶

青年部  
部長 横尾 裕 司

新年あけましておめでとうございます。

皆さまには輝かしい新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。また、平素より青年部の活動に多大なるご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、近年の高温傾向が作物生育に様々な影響を及ぼし、農産物の収量減少や品質低下が報告されました。一方で、サツマイモ、オクラ、ナス等、高温を好む作物の作付けが徐々に拡大される等、北海道農業の変化も見受けられ、持続可能な食料生産を目指す取り組みが進んで来ています。

青年部としましては、地域農業の振興と成長を目指し多くの活動に取り組むことができました。特に、新規に取り組んだ農村絵画コンクールでは、部員の協力と旭川小学校の皆さまのご支援のおかげで、盛況に終える事が出来ました。

また、応募いただいた絵画を基に青年部のPR動画も作成することが出来、これらの活動を通じて教育機関との繋がりの重要性を再確認するとともに、今後の食育活動への道筋をつける事が出来ました。

本年も、「地域振興と成長」という思いを胸に、部員一同、力を合わせて活動してまいります。今後のJA合併の可能性を考慮し、他JA青年部との共同活動を試み、持続可能な農業を実現するための新たな取り組みを進めていきたいと考えております。また、皆さまとの連携をさらに深め、地域全体の発展に貢献していく所存です。

結びに、本年が皆さまにとりまして実り多き一年となりますことをお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



## 新年を迎えて

女性部  
部長 吉岡 京

新年あけましておめでとうございます。ご家族お揃いで新年を迎えられていることとお慶び申し上げます。

また、日頃より女性部活動に対し深いご理解とご協力、ご指導を賜り厚くお礼申し上げます。

女性部の活動と致しまして、毎年恒例となった集荷場の花壇作りでは回数を重ねる度に花の配置や種類など工夫を重ね、昨年も色鮮やかで立派な花壇が出来ました。色とりどりの花は集荷場を利用する組合員や通りすがりの方まで喜んでいただけた事と思います。

夏期研修では、美瑛味噌を使用した味噌玉づくりや白金青い池、白ひげの滝、そして十勝岳望岳台からの絶景を見学しました。

冬期研修では、小樽運河観光と女性部の研修では初となるオリジナルのグラスづくり体験を行い、個性あふれるグラスを製作しました。

また、数年ぶりに豆腐作り体験も開催することができ、来年の活動に向けてまた一つ楽しみを増やすことができました。昨年は若い部員も数名増えましたので、更に楽しく、地域を元気にゆとりとふれあいのある住みよい地域社会づくりに貢献できるよう活動してまいります。

最後になりますが、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。





## 新年のご挨拶

稲作協議会  
会長 佐藤 絢也

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様には、日頃より稲作協議会の活動に対してご理解・ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、春の雪解けから順調に作業は進んだものの、田植え時期の低温や強風、夏場の高温等、管理作業には苦勞された年だったかと思えます。品質については懸念されていた胴割れや乳白等は全体的に少なく、収量も平年並みと概ね良い出来秋を迎えることが出来たのではないかと思います。また、価格においては1俵あたり2万円前後と今までに経験のないほどの高値となり、生産経費の高騰が価格に転嫁され、安心して経営の出来る価格帯になったのではないかと思います。そのような中、会員皆様のご尽力、ご協力により「27年連続全量一等米」出荷を達成することが出来ました。しかし、JAとの出荷契約数量 約7万俵に対して6万8千俵と達成できず残念な結果となってしまいました。

協議会としては、直播栽培研究会や業務用米研究会と連携を取りながら「えみまる」や新品種「そらきり」の栽培試験、青空教室を開催しました。道内研修会では、「えみまる」の栽培ほ場の見学や上川農業試験場にて「そらきり」の研修を行いました。

また、「えみまる」を産地指定いただいている大和産業株式会社と株式会社フジを訪問し、販売計画や生産者交流など、今後の取り組みについて協議を行ってまいりました。

今年度も協議会会員の皆様や各関係機関と連携を取りながら、時代や環境に合った栽培方法や栽培技術の研究を進め、東旭川稲作の発展に尽力していきたく思います。

最後になりましたが、今年も災害が無く豊穡の秋を迎えられる事と、皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げまして、新年のご挨拶と致します。



## 新春のご挨拶

畑作協議会  
会長 荒内 孝文

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃より畑作協議会の活動に多大なるご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、雪解けは順調で春小麦のは種作業はスムーズに進みましたが、少雨の影響により秋小麦の追肥の効果が遅れ、増収につながりませんでした。

収量に関しては、秋小麦は平年並み、春小麦、初冬まき春小麦、そば、大豆は増収と会員皆様の努力が結果に繋がったと思えます。

協議会の活動としては、道外研修を行い、岩手県北上市にある株式会社 西部開発農産へ視察に行っていました。作付面積 約900haの大規模経営の法人で、農業以外にも農業機械の販売整備や建設等地域の需要に応える法人経営をしており、私たちのこれからの経営を考える上で、大変勉強になりました。

今年度も引き続き、高温対策や収量増・高品質生産に向けた管理技術向上と基本の土づくり等について、普及センター、JAと協議・検討し、会員の皆様へ研修会や講習会等で情報を提供できるよう準備していきたく思いますので、今後ご協力お願い申し上げます。そして、変わらず消費者へ「安全・安心」な農産物を提供することを基本とし、協議会として栽培技術の向上に努めてまいりますので、ご協力をお願い申し上げます。

本年も皆様健康で活躍され、豊穡の秋を迎えられますことをご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



## 年頭のご挨拶

旭川青果物生産出荷協議会東旭川支部  
会長 守屋 大 輔

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては輝かしい新年を迎えられたことと心よりお慶び申し上げます。また、協議会活動にご支援ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年は元日に石川県能登半島で大きな地震が発生したとのニュースが流れ、地震大国を改めて実感し、大きな衝撃を受けた一年の始まりでした。

出来事など振り返ってみますと昨年は「史上初」や「史上最高」などのフレーズを多く見かけたように思います。スポーツでは旭川出身の北口榛花選手がパリオリンピックで日本女子選手史上初めてフィールド競技で金メダル獲得や、大谷翔平選手が50-50達成、3度目の満票MVP獲得など嬉しいニュースが沢山ありました。

また、夏の平均気温が一昨年と同じ最高を記録するなど史上最も暑い夏だったと気象庁からの発表もありました。そして、世界でも2024年は平均気温が観測史上最高を更新することはほぼ確実とされています。

そのような中、私達の地域でも高温の影響を受けたものの収量や品質は平年並みで、高値で推移した事により総体的には良かった年だったと思います。

今も世界各国で行われている終わりの見えない紛争や、アメリカ大統領トランプ氏の再選など今後どのような影響が及んでくるのか先行きが不透明な状況は今後も続いていくと思いますが、当協議会も腰を据えて状況や時代に合わせながらも先を見据えた活動を行い、会員・関係者の皆様が少しでも良い方向に向かう活動を行いたいと思っております。

最後になりますが、本年度も皆様のご協力とご多幸をお祈り申し上げ、新年のご挨拶にかえさせていただきます。



## 新年のご挨拶

兵村の里運営協議会  
会長 鈴木 英 義

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、つつがなく新年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。また、協議会活動にご支援ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は能登半島地震や終わりの見えない戦争、急激な物価高騰など厳しい状況が続く中、温暖化により相変わらず作物の管理が難しい年でした。そのような中、会員の皆様には協議会活動の栽培講習会をはじめ、10周年記念の1泊研修等といった活動へのご協力、また、兵村の里に出荷いただき、誠にありがとうございます。

本年も異常気象が予想されますが、このような中でも会員の皆様と考えながら売り場のより一層の充実を図り、お客様のニーズに応えていきたいと思っております。兵村の里の野菜・花卉は小面積でも出荷できるとともに、消費者の反応もすぐに実感でき、さらに組合員の皆様の丹精込めて作った作物を個々が販売価格を設定できるので、とてもやりがいを感じています。今年も地産地消をもとに会員一同活動していきたいと思っておりますので、ご支援、ご協力のほどお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご健康とご多幸をお祈りいたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



## そ菜・花き視察研修

11月7日、会員18名参加のもと旭川青果物生産出荷協議会東旭川支部 そ菜・花き視察研修が開催されました。

最初に、滝川市にある花・野菜技術センターにてアスパラガスの枠板式高畝栽培やトマトの土壌消毒についての研修を受けました。その後、松尾ジンギスカンで昼食をとった後、ノースファームストック岩見沢にて北海道の素材にこだわったドレッシングやケーキ等様々な加工品を見学してきました。

今後の生産に向けた実りある研修であり生産者同士が活発に意見交換を行うこともでき、非常に有意義な研修となりました。



## 女性部 冬期研修

11月12～13日の2日間、部員10名参加のもと女性部冬期研修が開催されました。



1日目は小樽イルポンテにてサンドブラスト体験を行った後、各自小樽運河を散策し、小樽で長年にわたり培われた歴史や文化を体感することができました。

2日目は札幌に移動し、白い恋人パークにて工場見学を行った後、AOAO SAPPOROにて水辺に生息する生物について学習しました。最後に道の駅ライスランド深川の農産物直売所にて、旭川ではあまり見ることのない野菜や果物を見学しました。

ここでしか味わうことのできない体験の連続と、会員同士の親睦も深まり非常に有意義な研修となりました。

## トマト部会 視察研修

11月11～14日の4日間、部会員3名参加のもと、旭川丸果を通じて広島県に拠点をもつ大型量販店(株)イズミと仲介業者である(株)クリエイト・オブ・アグリカルチャープラン(CAP)を訪問しました。

初日はCAPへ訪問し、今年度のトマトの輸送段階での着荷状況や野菜パッケージセンターを見学しました。その後、(株)イズミを訪問し、棚に並んでいる他産地のトマトを見ながら担当バイヤーと意見交換を行いました。

部会員にとっては来年度に向けての計画、輸送コストが高騰している中で部会として何か工夫できないかを考える良い機会となり有意義な視察研修となりました。





## 畑作協議会 冬期研修

11月13～15日の3日間、会員6名参加のもと冬期研修会が開催されました。

初めに岩手県にて水稻や畑作、畜産等約900haの大規模農業経営をメインに、飲食店や建設業等様々な事業に取り組まれている(株)西部開発農産を訪問しました。社長の照井様より会社概要や事業内容等の説明を受け、施設をご案内いただいた後、意見交換を行い有意義な研修となりました。



次に、宮城県にある気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館を訪れました。震災当時の映像資料や被災した建物がそのまま保存しており、地震や津波の恐ろしさを改めて感じました。

研修会を通して、会員間の親睦を深めるとともに、充実した研修を行うことが出来ました。

## ふるさと屯田米 販売促進

11月14～18日の5日間、会員5名参加のもと、鹿児島県の山形屋で開催された北海道物産展に出店し、ふるさと屯田米ななつぼしを販売しました。この物産展は全国で開催される北海道物産展の中でも売上日本一を誇る巨大イベントで、ふるさと屯田米グループは毎年販促を行っております。今ではリピーターも増え、販売開始から約2時間で予定していた100kgを完売することができ、大成功の販売促進活動となりました。



## 農業用ビニール・ポリ リサイクル回収



11月13～14日、18日の3日間、農業用ビニール・ポリ等の回収が行われました。

13日は農業ボトル・苗箱の回収で63件の11.2t、14日の農業用ビニール・ポリ回収では98件の23.4t、18日の硬質プラスチック回収では54件の3.8tが回収されました。

また3日間の回収の際には各部会・協議会の役員並びに部会員の方々にご協力をいただき、大変スムーズに回収を行うことができましたことにお礼を申し上げます。

組合員の皆様には、次回以降の回収の際にも分別へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

# 役員研修報告

11月20～21日の2日間、役職員12名にて役員研修を実施致しました。  
今年は第31回 J A北海道大会の開催に合わせて、北広島にあるホクサン株式会社と当 J A のさつまいも出荷先である苫小牧埠頭株式会社にて研修を行ってまいりましたのでご報告致します。

## 1日目

### 第31回 J A北海道大会

今回の大会では J A グループ北海道の将来ビジョン「力強い農業」と「豊かな魅力ある地域社会」～ひとを育み、ひとと歩む～の実現に向け食料安全保障の強化と農業所得の確保、対応、人口減少局面下の人材の確保等、農業・ J A を取り巻く環境や今後の展望を踏まえ、 J A グループ北海道が一丸となって実践するべき事項について決議しました。

また、大会前には記念講演が行われ「新たな食料・農業・農村基本法における北海道農業の目指すべき方向性」と題して、東京農業大学総合研究所 特命教授 末松 広行 氏により講演が行われました。

大会終了後には「東野ひできを励ます会in北海道」が開催され、会場全員で「ガンバロー三唱」を行いました。



## 2日目

### ホクサン株式会社

ホクサン株式会社にて、初期除草剤「先陣」と水稲用初・中期一発処理除草剤「レオゼータ」についてお話を伺った後、薬剤の生産ラインを見学してきました。

ホクサン株式会社は高品質の農業製品やいちご種苗の安定供給と高い技術サービスの提供に努め、道内で唯一、製造工場と研究所の両方を有する総合農業メーカーです。

近年では生産者の意見を直接聴くことができるモニター制度を活用しながら生産者のニーズに応えることを使命とし、さらには社員の様々なアイデアを活かしつつ、ジェネリック農業・大型規格製品・省力化製剤の提供やスマート農業機械の導入・SNSを活用した技術情報発信など、新たなニーズにも応えるべく行動しております。



### ホクレン さつまいも選果場

苫小牧埠頭株式会社のさつまいも選果場にてさつまいもの生産から販売についてお話を伺った後、選果場内の施設を視察しました。

苫小牧埠頭株式会社では温暖化の影響などにより道内でさつまいも栽培が本格化していることを受け、コメや砂糖などの保管に使用していた約1920平方メートルの倉庫を改装し2022年に道内初となる国内最大規模のさつまいも選果施設の稼働を始めました。

選果施設では、令和5年度390トン令和6年度は650トンの集荷見込みであり、全道から出荷されたさつまいもを一定の温度・温室に保たれた室内で洗浄から重量別の選果、箱詰めを行い、1日6～8トン道内外・国外へ出荷を行っております。

今後は更なる事業拡大を目標に物流2024年問題にも真摯に取り組み多方面で北海道農業振興への貢献を目指しております。



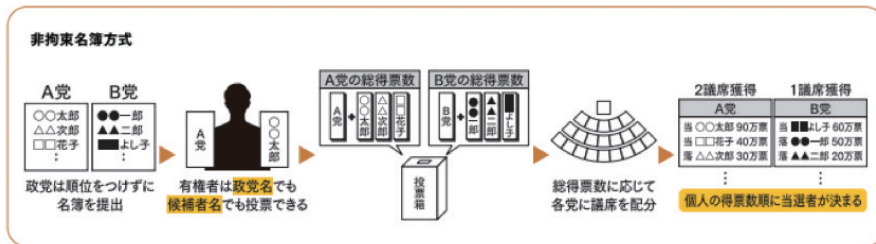


# JAグループ北海道の農政活動強化に向けて

## 第5回「参議院選挙の仕組み」について

農政活動の柱の一つが、生産現場の声を代弁し、国や行政に積極的な働きかけをしてくれる議員を政治の場に送り出し、支えていくことです。そして、JAグループにとって最も重要なのが「参議院選挙比例代表」です。

参議院選挙では、各都道府県を区域とする「選挙区選挙」と、全国を一つの単位をする「比例代表選挙」の2つの選挙制度で成り立っています。「選挙区」は、北海道から立候補している候補者名を書いて投票します。「比例代表」は、全国から立候補している「候補者名」または「政党名」を書いて投票します。この「比例代表」は非拘束名簿方式といって、政党の得票数に応じて議席が配分された後、その政党の中で個人名の得票数が多い順に当選が決まる仕組みとなっています。



つまり、「比例代表」の投票用紙に「候補者名」を記入しないと応援したい候補者に票は入らない仕組みになっています。

「比例代表」には、さまざまな業界や団体が代表候補を送り出しています。多くの得票数を獲得し、当選順位を上げるよう活動しております。これは、高い順位で当選した候補者は、党内での発言力が増し、政策実現に近づくことができるからです。言い換えると、得票数で、我々JAグループの力が測られていることになります。

国会(政治)は数が力です。国を動かすには、国会に一人でも多くの農業やJAの理解者を増やすことが重要



です。そのために、我々JAグループの代弁者として、先頭に立って多くの国会議員に働きかけ、農業やJAの理解者を増やし、まとめていくことができる議員、つまり、JAグループの代表議員が必要なのです。

東野ひでき公式  
LINEアカウントへの  
登録はこちらから



【JAグループ北海道の農政活動強化に向けて】と題し、農政活動や参議院選挙の仕組みなどを、来年夏頃まで連載いたします。次回(第6回)は、後援会の活動経過について報告します。

## 東野ひでき北海道後援会

### 行事予定

#### 1月

- 6日 新年恒例会・五穀豊穰祈願祭
- 20日 理事会
- 27~29日 組合員宅巡回訪問
- 30日 理事会・再生協議会・農事組合長会議
- 31日 事業年度終了  
みのり監査法人棚卸立会・監査決算棚卸(生産資材店舗・豊田支所(購買店舗)休業)

### 人事異動

#### 採用

令和6年12月1日  
燃料課勤務(社会人採用)

かな がわ くす なり  
金 川 楠 成



あさの こうき  
浅野 光喜

令和6年1月 営農販売課 勤務（社会人採用）

- ・趣味：筋トレ
- ・特技：フットサル
- ・好きな食べ物：焼肉
- ・最近ハマっている事：ドライブ
- ・仕事をしていて嬉しかった事  
組合員の皆様に顔と名前を覚えて  
いただいたとき

・本人よりひとこと  
まだまだ不慣れなことも多いですが、組合員の皆様のお役に立てるよう日々努力してまいりますので、よろしくお願い致します。

## 令和7年度 営農計画書の提出について

令和7年度の営農計画書については、1月中旬にクミカン報告書と合わせて郵送致しますので、下記の要領にて期日までに提出願います。

### 1. 提出期限

**令和7年1月31日（金）**

### 2. 提出先

農事組合	提出先
西・本町、南地区、北地区	金融共済課（金融）
日の出・倉沼、桜岡地区	営農販売課
豊田、ペーパン	豊田支所

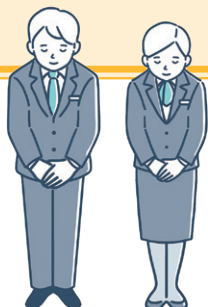
皆様から提出されました営農計画書に基づき①供給限度額 ②現金支出限度額 ③貸越極度額 が設定されますが、営農計画書樹立までの間、2月末まで暫定限度を設定させていただきます。暫定限度については、家計費を前年度の30%以内とし、家計費以外の項目については、前年度計画の範囲内と致します。

※提出方法については1月中旬のクミカン報告書郵送時に改めてご案内致します。

## 臨時休業のご案内

1月31日（金）は、決算棚卸のため生産資材店舗・豊田支所（購買店舗）を休業致します。

ご迷惑をおかけしますが、よろしくお願い致します。



## 編集後記

新年あけましておめでとうございます。  
組合員の皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、本年の干支は巳ですが、巳と実を掛けて実を結ぶ年と言われたりもするそうです。言葉の通りに、組合員の皆様の日々の努力が実を結ぶ1年となるよう願っております。

これから益々寒い日々が続きますので、組合員の皆様におかれましては、お体には気を付けてお過ごしください。

本年も引き続きJAだより「~~あ~~ひかり」をご愛読いただけるよう編集委員一同励んでまいりますので、よろしくお願い致します。  
(片山)